仙台教区報

発行所カトリック仙台司教区事務所
980仙台市本町一丁目2番12号
電話〇二二二-22-七三七一番
編集・発行人　首藤　正義

仙台教区に新司祭誕生
野田町教会出身　佐藤　修　神父

昨春に引き続いて今春も仙台教区に新司祭誕生―。

3月21日春分の日、仙台・カトリック元寺小路教会で、佐藤修助祭の司祭叙階式が盛大に行なわれた。当日の式典にはあいにくの雨にもかかわらず、仙台市の教会・修道会をはじめ、佐藤助祭の出身教会である福島市・野田町教会など、仙台教区内各地から450人が参集して、新司祭の誕生を祝った。

叙階式は午後1時30分、佐藤千敬仙台教区長、小林有方司教、佐藤守也神学院長ほか51人の司祭の共同司式でささげられた。叙階の儀で司式者51人の司祭の按手により新司祭が誕生し、佐藤新司祭は共同司式の司祭団に加わり、初のミサをささげた。

続いて、仙台白百合学園幼稚園講堂を会場にして祝賀会が催され、冒頭あいさつに立った佐藤司教は、「多数の信徒の皆様の見まもる中で叙階式を行ない、新司祭の誕生をともに喜び祝うことができたことを感謝します。そしてこの佳き日は、小林司教様が50年前に司祭に叙階された日であり、また、私が司教に叙階して9年目の記念すべき日でもあり、三重の喜びとなりました」と述べると、会場は盛大な拍手にわいた。

このあと、佐藤新司祭は、「私は、神が創られた一人ひとりを大切にし、その一人ひとりが神の意にそって生きられるよう、神の福音を伝えていきたいと思います。私たちの唯一の模範であるイエズス・キリストに忠実であるように、皆様からのお祈りと励ましを、お願いいたします」とあいさつした。

会場では次々と記念品の贈呈やスピーチが続き、シャルトル聖パウロ修道女会のシスター方によるマリンバの演奏の披露など、終始新司祭の誕生を祝う喜びに満たされていた。

3人神学校へ入学

佐藤助祭が新司祭となって教区にもどり、神学校は会津隆神学生ただ一人になり寂しくなると思われていた矢先、今度、3人の若者が入学することになった。パウロ宮崎正美君（塩町教会出身）、洗礼者ヨハネ氏家和仁君（元寺小路教会出身）、アシジのフランシスコ小野寺洋一君（元寺小路教会出身）。

教区司祭の老齢化の進む中、昨年の板垣神父の誕生、そして佐藤神父の誕生に引きつづいて3人の神学生が現われたことは、教区民にとって大いなる希望となった。このことは神のなせる業であると同時に、教区民一人ひとりの祈りと犠牲によるものでもある。今後とも神学院で研鑽に励む4人の神学生のために、祈りと経済的援助を、教区民全員に期待する。

尚、4月3日元寺小路教会で、聖香油のミサの中で会津隆神学生（元寺小路教会出身）が助祭・司祭候補者の認定式を佐藤司教によって受けた。

司教日程
（3月27日現在）

4月3日　聖香油ミサ・司祭候補者認定式
4～6日　聖なる過越の三日間（元寺小路）
7日　復活主日　（元寺小路）
10日　カリタス・ジャパン事務局（東京）
11日　常任司教委員会（東京）
14日　北上教会堅信
15日　学校法人理事会（仙台）
18～19日　カリタス・ジャパン事務局
　神学校常任司教委員会、難民施設連絡会議（東京）
22～24日　男子管区長協議会総会（東京）
25日　カリタス・ジャパン事務局（東京）
5月2日　カリタス・ジャパン事務局

教区大会に向けて

教区大会企画委員会

教区大会企画委員会（第3回会合＝2月10～11日）で考えた大会に関する大筋をお知らせします。御意見や要望をお寄せ下さい。

(1) 大会プログラム

9月14日　13時　開会式（みことばの祭儀）
13時30分　講演　（15時　休憩）
15時30分　各地区からの発表
18時の終了後、自由参加の懇親会

9月15日　9時　各地区からの発表・続き
10時30分　発表終了・休憩
10時45分　ミサ・閉会式
12時　終了

(2) 各地区からの発表＝大会の中身＝

「家庭のあるべき姿」について各教会で話し合いを積んだものを県レベルでまとめ、県代表2名（合計8名）から発表してもらう。発表内容が重ならないように小テーマを設ける。この小テーマは昨年11～12月のアンケート結果の分析が出た上で、また、現在計画中の第2回アンケートと並行してはっきり定めるが、考えられるものとして次の項目が挙げられるので、今から各教会で話し合って頂きたい。

＊信徒の（人間としての）自由と責任、＊秘跡（ミサ、ゆるしの秘跡、幼児洗礼：）に与る判断基準、＊子供の性教育、＊非行問題、＊夫婦の性の問題、＊家庭の社会的役割（地域活動の中での宣教の使命）、＊なぜカトリックでなければならないのか。

(3) 予備調査

大会参加者の旅費を全額プール制とする。そのために各教会の参加予定者数と、各教会が最大限の「企業努力」をして安くあげる旅費の見積り額（参加者全員が電車で仙台に集まると旅費の総額は千二百万円程と考えられるが、それを半分程度にしたい）、また、宿泊についての希望、懇親会参加希望者数、等について予備調査を行なう。

(4) 大会実行委員会

実行委員会の構成は仙台・塩釜地区の教会に依頼する（その方が実際に動き易い）。各県に連絡や意見集約にあたる推進委員会があればよい。

（以上要点ノミ）

体験学習＝結び

韓国

ヒョンなことから昨年8月、青年たちと共に韓国へ行く機会に恵まれた。感謝。

異国の地に身を置き、たとえ短い期間であったとしても自らを晒す体験をした時、ひとはそこで多くの事を学ぶものである。多感な青年時代の経験であるならば、学ぶことも大であり、その後の人生の方向を変えることにもなる。5回にわたる青年の体験学習報告の中にそれを見るのは、私一人だろうか。

韓国・明洞教会の青年たちのさわやかな表情が今でも目に浮ぶ。彼らのグループはいくつかあるボランティアグループの一つで、結核病院に毎週訪問していた。市立病院で有料病棟と無料病棟があり、無料病棟の人々を訪ね、洗濯、掃除、話し、祈って一日が終る。出会っている人々が貧しい生活をしているのに、私たちがそれと無関係に豊かな生活をする訳にはいかない、出来るだけ生活の中でも貧しい人々と近くになりたい、という青年たちの実践に触れたとき、心が洗われた思いがした。

（首藤）

仙台教区司祭異動

教区司祭団（4月1日付）

塩町教会助任　佐藤　修
司教館付（転地療養）　土井文雄
塩釜教会主任代行・教区書記長兼任　平賀徹夫

グァダルペ外国宣教会（4月1日付）
管区長　G・ブランカス
田島教会主任　和泉　邦安
須賀川教会主任　S・エストラーダ
白河教会助任　E・ゴメス
喜多方教会主任　J・モンロイ
会津若松教会主任　J・ラレス

ケベック外国宣教会（4月8日付）
五所川原教会主任　J・ガブリ
弘前・大清水学園副園長　G・ラボンテ
弘前教会主任　G・ランドル ヴィル

教会奉仕者研修会
2年かけて終了ー岩手地区ー

司祭不在の教会が出てくる、そう叫ばれている今日、教会奉仕者の養成は急務と言ってもよい。岩手地区では教会奉仕者の研究会を計画し、一九八三年2月19日に第一回目の研修会を開催した。

今年の2月16日から17日にかけての最終、第七回まで、次の内容で研修を受けた。最初は、なかば不安な気持でスタートしたが、回を重ねるごとに参加者それぞれ、初代教会の信徒のように教会奉仕者として働かなければならない、という決意を固めあった。

第一回目　テーマ「すぎこしの神秘」「聖書による典礼の要点」「古代教会の典礼」
講師・ローネル神父

第二回目　テーマ「ご聖体に対する態度」「病者の聖体拝領」　講師・ゲーヴィレル神父

第三回目　テーマ「聖書、神のことば、人間のことば」「典礼の中の聖書、生活の中の聖書」「ミサ中の3つの聖書朗読について、3年周期の聖書朗読の配分について」
講師・ツーゲル神父、ヨセフ神父

第四回目　テーマ・みことばの典礼「司祭不在の際の集会祭儀について」「集会祭儀における説教について」「聖書朗読ーよみ方と聞く態度等」　講師・笹気直哉神父

第五回目　テーマ「典礼神学の理解について」
講師・国井健宏神父

第六回目　テーマ「死者の典礼」
講師・シュミドリン神父

第七回目　テーマ「みことばの祭儀・家庭集会・基礎共同体の各集会の指導について」
講師・ツーゲル神父

（北川好健記）

教区目標

キリストの
平和の使者になろう
（仙台司教区）

日本カトリック医師会
仙台支部総会 開かる

去る3月9日㈰午後3時から、元寺小路カトリック教会で佐藤千敬司教様司式のミサがあり、ミサ中のお説教で、カトリック医師の使命を力説された。つづいて、会場を新装成った江陽グランドホテルに移し、星安治郎事務局長の司会で総会を開いた。出席会員30名。

まず、先日他界された横田篤三先生の御霊魂のために黙禱をささげた。ついで早坂養吉支部長が挨拶に立ち、故岩下壮一神父様が神山の復生病院の院長をしておられた頃、最も重い病人の病室の真上の自室で、重病人のうめき声を聞きながら、「オヤジ、オヤジ」と患者からしたわれていた師が、いかに彼らになぐさめを与えながら、思索し、哲学していたかという話をされ、カトリック医師のあり方に一つの方向づけを投げかけた。

つづいて、プログラムに従って進行した。

1.「外科医の一生をかえりみて」
前国立仙台病院長・菊地金男先生

この中で先生は、人間にはクルシミに耐える力、もう一つは、自分の切った患者さんがどうなっているか、とても心配だというお話をされた。

終って今回、先生が長年医学界に貢献されたということで受けられた勲二等瑞宝章の叙勲のお祝いの花束を一番お若い女医さんから受けられて、ニコニコ顔であった。

2.「リウマチと膠原病」と題して、東北大学医学部助教授・岡崎太郎先生が演壇に立たれ、ユーモアを混じえて、専門の領域の学問を明快にあざやかに解明された。そして、日本の医者は威張ってはならない。西欧では患者さんがベッドに横たわり、極めて楽な姿勢で診察を受けられるし、医者は立っている。片や日本では、医者は両そで付の立派な椅子に、患者さんは小さい貧弱な丸椅子にかけさせられるなどなど。ゼスチュアよろしくのスピーチに拍手喝采、楽しい雰囲気になった。

3.つづいてフィリピンでの巡回診療についてスライドによる説明が竹内正也先生によって行なわれた。

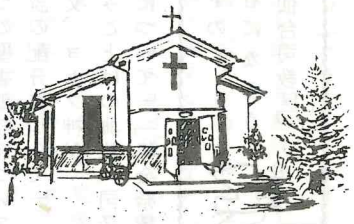
午後7時15分から会食になった。カメラを忘れたので、お向かいの部屋で医者達に新薬の宣伝をしている薬屋さんにスナップをお願いした。デザートを終って、やるぞ!!という気分になって再会を約しつつ解散。

今回の特長は、医学生数名と他県からの参会者が多数であったことである。（早坂）

おらが教会

(51)

福島・須賀川教会



福島県南地方にあって、かつては政治、文化、経済の中心地として、郡山を凌いで栄えたが、今や郡山市の経済圏の中でベッドタウンと化した人口五万余りのコンパクトな須賀川市のほぼ中央にわが教会は位置している。東北本線須賀川駅から東へ約3キロ、緑濃い雲水峰の麗姿を望む台地の一角に聖堂、司祭館、音楽教室、グァダルペ宣教会本部の4棟が調和よく姿を見せている。年間を通して、さしたる風水害雪害もなく、活動には便利な土地といえる。

須賀川教会のメンバーは総勢25名程度の小規模教会で、ただ今主任司祭にモンロイ神父を頂いてがんばっております。昭和三十四五年ころは、国立病院入院中の信者さんを含めると40名を超えていたとのことである。地方小都市の悲しさで、若い信者たちが学校を卒業すると、職を求めて大都会に流出し、また転入、転出も多い。このままでは後継者難に苦しみそうである。

現在の教会建物は昭和30年に、あのひげのりっぱなモリソン神父様の構想で、東北電力事務所跡を買い取って建てられ、聖堂、司祭館、職員宿舎2棟であった。その前は須賀川はドミニコ会の巡回教会であった。初代主任司祭はリード神父様。がっしりとした活動的な方で、いつもお好きなことばは真善美で、音楽を通して子どもたちの心を美しく育てたいと言って、自ら西洋式の大工道具を取り、買い取った収納小屋を音楽室に改造された程である。スタッフも精力的に集められ、青森出身のコック高橋夫妻、カテキスタの清水先生、石棉先生、ピアノの遠藤救子先生の陣容を以て須賀川教会の活動をスタートされた。その後老齢のためカナダへお帰りになり、ガリエピ神父様が引継がれた。現在の音楽室ホールは、同神父様のお骨折りになるものである。ガリエピ神父様が体調を崩して休養のためカナダにお帰りの間に留守の神父様が次々とお変りになった。押田神父様、門脇神父様、帰天されたクツル神父様などいろいろなご指導とお人柄に接することができたのは、ある意味では有益な経験を私たちは持つことができたと思う。そしてついにガリエピ神父様の代にわが教会はドミニコ会からグァダルペ会に引継がれることになった。その初代主任司祭にルイス・ロペス神父様が就かれた。以後イバラ、ブランカス、マルコスと引継がれて現在のホセ・モンロイ神父様に至るのである。

モンロイ神父様は管区長と喜多方幼稚園長も兼ねて、文字通り東奔西走の活躍ぶりでしたが、この4月からブランカス神父様が管区長を継ぎ、モンロイ神父様は喜多方へ転任と決まりました。4月からはエストラーダ神父様が主任司祭となります。

わたしたちは現在次のように活動しています。土曜学校を開いて児童のカトリック的道徳と英語教育、岩瀬農高から鶏卵を仕入れて信者が購入し、また、古新聞、ダンボール、酒・しょう油びんの収集販売をして得た益金を年2回アフリカ難民の救援資金として送金、毎金曜日夜に聖書研究会、土曜学校児童の夏期雲水峰キャンプなど。

思い出に残ることもいろいろとある。数年前の大雪で停電、交通途絶のためミサ不能でパーティーのごちそうが山盛余ったり、いま東京の大学で美術の勉強をしている清水宏君の手になる大背景画で聖誕劇が行われたり。納涼盆踊り、メキシコのソンブレロすがたのマルコス神父様の踊り、姉さんのアンヘリタさんの手作りのメキシコの伝統ケーキを頂いたこと、グァダルペ会本部落成など。

現在須賀川教会の教勢は正直言って停滞気味のようであるが、アフリカ救援活動や土曜学校の活動に理解を示してくれる未信者の方もおられる。わたしたち自身発奮努力しなければならないのは勿論、教区のみなさまの祈りを頂いて、一歩を進めなくてはならないと思います。

（渡辺　敏郎）

【編集後記】新司祭・3人の神学生の誕生は教区にとって大きな喜びである。今後、神学校報告として生活現場からの生の声がこの紙面にお目見えすることになろう。（首）